



NPO法人邦楽指導者ネットワーク21～今後の課題～

理事 山岡知博

今年3月11日、東北三県と関東の一部を突然襲った東日本大震災、十ヶ月を経た今も目を覆う瓦礫の山、目に見えぬ放射能の恐怖から解き放されぬまま新しい年を迎えようとしています。わがNPO法人邦楽指導者ネットワーク21は、このような状況の中でも邦楽の普及支援の大目的に着々と実績を挙げ当初の「頑張ろう日本!」の掛け声から援け合いの方向へと地についた足どりがみられるようになりました。この間「東日本大震災チャリティコンサート」は6月19日に無事終了が報じられ、これには各支部の活発な活動が基礎になっていることは言うまでもありません。伝統音楽を学校教育の教材に取り入れ、その普及促進を図ろうとすることは明治以降なかった画期的な事業ですが、これを継続してこそ実績が上がるというものです。私は曾って文部科学省の「学習指導要領」の改訂実施に際して危惧したのは、従来の音楽教師だけでは実施上は充分でなく、それを補うのは教育学習の場で、生徒と音楽教師の両者を有効的に調整するコーディネーターが、邦楽にも通じた人材としてここ何年か必要になるのではないのでしょうか。NPO法人邦楽指導者ネットワーク21の役割や大。

一東日本大震災チャリティコンサート無事終了一

6月19日、東京狛江市西河原公民館に藤原道山氏をお迎えし開催されたコンサート。震災の後という事で、参加者は東京近辺の方中心となりましたが、福岡県・兵庫県・新潟県・静岡県・愛知県の会員の皆様にも遠路参加頂き、総勢70名近い出演者、演目数10曲、2時間半にわたり藤原道山氏の尺八の音色に導かれて熱演が繰り広げられました。最後に藤原道山氏が「アメイジング・グレース」で被災地の皆様に思いを伝えられ、感動さめやらぬ会場を後にしました。義援金も87,441円募ることが出来、早速、福島県須賀川支部にお送り致しました。

実行委員会 柴田裕子



被災地からの報告

3月と6月に皆様からいただいた義援金は、支部の子供教室のために放射能を遮断できるエアコンを設置した際の費用の一部として、役立たせていただきました。いつも温かく見守って下さっているNPO法人邦楽指導者ネットワーク21の皆様にご心より感謝申し上げます。さて、福島支部桐音会はその後も元気に活動しております!!放射能で野外活動が制限されている郡山市の園児たちに音楽をプレゼントしようと10月に「スマイルコンサート」を開催しました。桐音会の子供達が主体となって園児たちに聞かせたり演奏にあわせて踊ったりと、このときばかりは大いに盛り上がりストレス発散となりました。11月12日(土)・13日(日)は教育委員会の共催で「ドキドキ・ワクワク秋のこどもまつり」が行われました。なんと2日間で5000人の出入りがありました。朝からこども…こども…どこを向いても子供だらけでした。そこには教育支援センターで募集した15名が活動している「お琴クラブ」も参加しました。ちょっとびっくりすることですがお琴を弾いている子供達の首には放射能の蓄積量を調べるのに線量計を下げています。とても不思議な感じを受けるのですが、放射能量を報告しなければなりませんので福島県の子供達は全員首から提げているのです。子供達は当たり前のようにつけて気にすることなく、いろんなものに挑戦しているのです。

福島がんばってる!! 私達がんばってる!!
まだまだ福島っ子 元気です♪♪
そして・・・風評被害には負けません!!

須賀川支部 後藤礼子

